

② 考え、対話する **道徳科** の事例

草津型
アクティブ・ラーニング

本時の
ねらい

転校した正子から届いた絵葉書が定形外のため料金不足だったことを伝えるか、迷うひろ子の気持ちに目を向け考え、話し合う活動などを通して、友だちとの心のつながりについて考え、互いに信頼し合い、助け合おうとする心情を育てる。

学習活動



つかむ

1. 友だちだからできることについて話し合う。
○友だちだからできることはなんだと思いますか。
2. 学習課題を知る。



考える・話し合う

3. 登場人物、定形外郵便について確認後、教材「絵葉書と切手」の読み聞かせを聞く。
○ひろ子は何を迷っていたのでしょうか。
○ひろ子は、料金不足のことを正子に伝える方がいいか、伝えない方がいいか、どうしたらいいでしょう。理由を話し合いましょう。

◎本当の友だちとはどのような関わり方ができる人だと思いますか。

4. 自分を見つめる。
○自分と友だちとの関わり方について振り返りましょう。



見つめる・振り返る

5. 教師の説話を聞く。
6. 本時の振り返りをする。



予想される児童の意識

- ・遊ぶ・楽しく話す
- ・協力・けんか・じょうだん

学習課題 本当の友だちとはどのようなかかわり方ができる人なのだろうか。

- ・ひろ子 正子 定形外郵便 料金不足

- ・料金不足のことを正子に伝えたほうがいいか、伝えないほうがいいか。

【伝えない】

- ・正子に嫌われたくない。
- ・せっかく絵葉書をくれたのに正子に悪い。
- ・正子を悲しくさせたくない。
- ・正子に悪気はない。
- ・私のために送ってくれたから。
- ・正子が嫌い、料金不足のことを伝えてると思われるかもしれないから。

【伝える】

- ・親友の私がいえばわかってくれる。
- ・正子が恥をかいたらかわいそう。
- ・教えなかったらまた同じことをしてしまうかもしれない。
- ・自分だったら言ってほしいから。
- ・言いにくいことでも、相手のために言うことが本当の友だち。
- ・何でも言い合える関係が本当の友だち。
- ・お互いのことをわかり合っているからこそ間違っていることもきちんと伝える関係
- ・相手のためを思って行動できるのが本当の友だち。
- ・ぼくは、友だちに間違っているといえないことがあったので、何でも言い合えるようになりたい。
- ・前に私が間違っていたら友だちが注意してくれた。そのときは嫌だなと思ったけど、わたしのことを考えて言ってくれてるんだと思った。

- ・どんなときもなんでも言い合えるのは難しいけど、友だちの考えを聞いて、そんなふうになりたいと思った。
- ・自分が間違えたときは友だちにも伝えてほしいし、友だちにもきちんと伝えることが大切。
- ・これからは、友だちのためにも注意したい。

評価の視点

- ・ 本当の友だちについて、うわべだけの友だちではなく、本当の意味での友だちでいるためにはどうあるべきなのかを自分事として考えようとしているか。
- ・ 本当の友だちについて多面的・多角的に考えようとしているか。

教師の支援 □ 評価

- ・ 「友だち」のイメージについて尋ね、本時で考えたい道徳的価値について興味をもてるようにする。
- ・ 登場人物の絵やカードを用いて、状況をおさえる。
- ・ 定形外の郵便について確認する。

- ・ ICT機器を効果的に活用し、多様な意見に気付くようにする。
(ムーブノート)
- ・ ワークシートに理由を書くようにする。
- ・ 出てきた意見を類型化して板書することで、多様な意見に気付くようにする。

□ 「伝えない」「伝える」と考えた根拠をもとにして、本当の友だちならどうするか自分の生活や経験の中で深く考えようとしているか（発言・ワークシート）



- ・ なぜそのように考えたのか、自分のことを話せるなら話すよう促す。
- ・ 班で話し合ったことを発表させ、学級全体の意識を高められるようにする。

□ 本当の友だちについて、**多面的・多角的に考えよう**としている。（発言）

- ・ 児童が自分と友だちとの関わり方について、経験を想起しながら振り返った際に、本時のねらいとする道徳的価値と結び付けたり、整理したりし、実践意欲につながるようにする。
「そのときあなたはそんな気持ちがあったんだね。」
「あなたはそのときのことを今思うと～な気持ちになるんですね。」
「自分の気持ちを見つめて、～なことに、今気付くことができよかったね。」
「自分を見つめることができたから、自分のよさに気付くことができたね。」
- ・ 説話を聞き、自分たちの今後の生活において、実践態度を高められるようにする。



【事前・事後の指導】

人権週間の「わたし・友だちのよいところを見つけよう」の活動と関連させ、一人ひとりのよさを確認し、友だちと互いに信頼し合い、助け合おうとする意欲を高めていく。

授業改善のヒント

意見の可視化
「伝える」「伝えない」の考えを視覚化し、自分の考えを明確にする。自分の考えの根拠をグループや全体で、話し合う。

自分の考えを気持 クラス全体の気持ち
ちメーターに表示 メーターの集約

考えの根拠の明確化
自分の考えの根拠をワークシートに記述し、考えを整理する。ペアやグループで自分の考えの根拠を話し合い、多様な意見に気付くことができるようにする。

自分の考えをカードの色で表明 考えを三角柱カードの色で表明

対話的な 学びのポイント

自分の生活や経験を重ねて、自分の考えの根拠を話し合い、多様な意見に気付くことができるようにすることが大切である。考えたことや感じたことなどを付箋に書き、貼ったり剥がしたりしながら話し合い、様々な考え方や感じ方を整理できるようにしてもよい。ウェビング法（連想を広げていく手法）などを用いて、様々な考え方や感じ方を視覚化し、それぞれをつなげたり、比べたりできるようにするなど、多様な考えに気付く手立てを講じることもできる。書いたことのみを発表する話し合いで終わらせないことが大切である。

多様な考えに気付く話し合い

葛藤場面を焦点化

相違する考えの表記 自分の考えをマグネットで提示

多面的・多角的に考える工夫

「本当の友だちとはどのようなかわり方ができる人だと思いますか。」の発問で、本当の友だちとはどんな関係か、児童に考えさせたい姿を明確にしておく。児童の考えは類型化し、多面的・多角的な考えに気付くことができるように板書の工夫をする。自分の考えをワークシートに書く際に机間指導で、気付かせたい考えを座席表に記録しておき、全体交流で意図的に指名し、多様な意見に気付くようにする。

学習の足跡や振り返りの蓄積

毎時間の振り返りカードをファイルに綴ったり、道徳ノートに貼付したりして、学習の足跡を残す。また、自己評価をタブレットのムーブノートに記録させ、学習の様子を保存し、評価につながることもできる。